

チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F
TEL/FAX: 092-260-3989
E-mail: jimu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.
127

特集 大学生による福島訪問レポート

CONTENTS 大学生による福島訪問レポート /
ウクライナ難民人道支援基金「ふくしまキャンプ」だより /
特別寄稿・自然豊かな飯館村が原発事故に遭うと /
ミンスクの日 / 古本募金きしゃぼんのご紹介とお礼 / 活動報告 /
支援者のお名前とメッセージ



大学生3年生と4年生、中間貯蔵施設にて。
奥には福島第一原子力発電所が見えています。
(福島県双葉郡双葉町・大熊町)

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

本紙はチェルノブイリ医療支援ネットワークの活動を
支援して下さっている皆さまへお届けしています。
送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。
<https://cher9.org/information/news/>

郵便振替口座 01770-1-65328
他の金融機関からは 一七九支店(当) 65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」

大学生による福島訪問レポート

昨年に続き、福島県の今を知るため、チェルノブイリ医療支援ネットワークスタッフが2022年3月20日(日)～30日(水)、福島県を訪問しました。その間の23日(水)～26日(土)の4日間、私たち大学生も参加しました。感じたことや学んだことの一部を、今回訪問した施設やお話した方々のご紹介と併せてご報告させていただきます。



雪だるま(左)と、
雪だるま作成中の大学生(右)
福岡ではめったに見ない雪
が嬉しかったです



■震災遺構浪江町立請戸小学校

請戸小学校は双葉郡浪江町にあります。海から約300mしかなく、震災当日は町を震度6強の大地震と15メートル以上の大津波が襲いました。請戸小学校は、震災について伝え、防災について考えるきっかけとして保存・整備され、2021年10月から震災遺構として一般に公開されています。校舎の壁には津波が到達した高さ看板が設置されており、二階の床ほどまで津波が到達したことがわかります。一階部分は津波が来た当時のほぼそのまま、二階では展示が行われています。一階には教室や職員室、体育館や給食室などがあります。教室や職員室にはほとんど何も残っており、むき出しの天井や壁などが見えます。体育館の床は大きな段差ができ、ステージ上の「祝 修・卒業証書(授与式)」から当日は卒業式の準備が行われていたことがわかります。給食室では、調理するための大きな機械がいくつも流され、天井までふさ



請戸小学校
2階の床あたりまで津波が到達した



校舎内の様子と
展示されたパネルを読む大学生



給食室
天井まで積みあがっている機械や器具

いでいました。順路に従い歩いてみると、説明のパネルが置かれており、震災前の風景や当日そこで何が起きていたのかを知ることができず。二階の展示では、請戸地区の歴史、震災以前のハザードマップと実際の被害の比較、請戸地区出身の方のインタビュー映像や当時の在校生の震災後10年を振り返った作文などがみられます。



卒業式準備中の体育館
写真下の床は大きく凹んでいる

当時のまま残されている校舎は、地震と津波、そして年月を経てさびれていました。震災があった当日の様子が記されたパネルは、順路に沿って時系列で設置されています。教室のドアや窓は流され、金属製のドアやロッカーはひしゃげていました。電気や水道の節約を呼び掛けるポスターや床に落ちた「保健室」のプレート等、そこにあった日常とその日常がもうないことを同時に感じる場所でした。

校舎二階で展示されている当時の在校生のものの作文を読んで、希望を持った前向きな文章がとても印象的でした。



荒木

これまで写真でしか見たことのなかった津波の被害の痕跡を実際に見ると、知識として知っていた津波の恐ろしさや威力の大きさがより感じられました。校長室の金庫や給食室の調理用の機械など、大きくて非常に重そうなものがもとの位置からかなり流され、さらにぐしゃぐしゃにつぶれてしまっているのを非常に印象深く覚えています。また、教室にぽつぽつと落ちていた小物や廊下の水道などを見てみると、私自身の小学校の記憶も思い出されるとともに、それらがすべて流され日常が一変したことにさみしさも感じられました。当時児童と教師が走って逃げたという大平山が学校から見えましたが、想像よりもかなり遠く(約1.5km)、この距離を全員が走って逃げたことにとっても驚きました。

二階の展示では、ハザードマップと実際の被害の比較がされており、ハザードマップでは津波の被害は実際よりはるかに小さく見積もられていました。私自身も避難の参考にしようとして自分の住んでいる地域のハザードマッ



田中

プを見たことがあります。展示を見て、ハザードマップに書かれているものが最大だと思っただけでいけなさと感じました。避難についての説明や、二階の展示などから、速やかな避難や普段からの意識など、防災意識が高まりました。

■東日本大震災・原子力災害伝承館

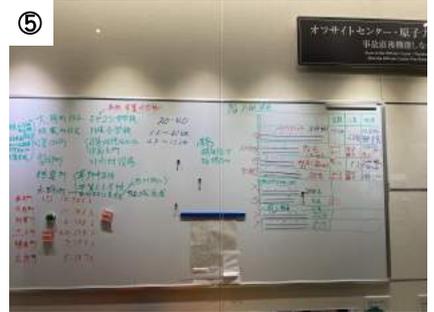
東日本大震災・原子力災害伝承館は双葉郡双葉町にあり、福島県を襲った大地震・大津波・原子力災害という複合災害について伝承を目的として資料などを保存・共有する施設です。中に入ると最初に五分ほどのプロローグ映像が流れ、福島について考えるきっかけとなります。伝承館では語り部の方による講話も行われており、プロローグの後に聞くこともできます。今回の訪問では、講話



施設の外観



- ①屋上からの風景
- ②展示場の様子
- ③展示場の様子
- ④フレコンバッグ
(汚染土を入れる袋) 実物
- ⑤事故発生時の対応に使われていた
ホワイトボード



は聞かずに展示だけを見ることになりました。

震災前の現地の暮らしから、地震・津波・原発事故の瞬間の映像や資料、原発事故に関する現地の状況や対応、県民の方の思いなど多くの資料が展示されており、2011年3月11日以降の複合災害についての知識を深めることができます。災害発生後めまぐるしく変わった状況を表や資料から学び、被災地の復興のために現在行われている取り組みなども学ぶことができました。一時間半ほど展示を見た後屋上に上り、請戸小学校や海、中間貯蔵施設を見ることができました。



荒木

第一印象はとてもきれいな施設だなという感じでした。最初に語り部などが行われることもあるという大きなホールで震災前の人々の営みや、原発事故、そしてその後についてなどの映像を見ましたが、非常に分かりやすかったです。展示についても細かい説明やイラストを用いた解説、写真や映像があったり、職員の方が解説してくださったりと工夫

されていると感じました。震災についての情報がかなり整理されているため、全部見るには時間がかかりますが、震災や事故について学ぶ上で必要な施設であると思いました。



田中

私は前回の福島訪問(2021年9月)で二回見学したため、今回で三回目の訪問となりました。しかし、前回の訪問ではたくさんの資料を一通りざっと目を通すだけで時間が過ぎてしまいました。その際に得た知識や、前回の福島訪問から半年の間に得た知識を整理した状態で訪れると、より細かい知識を得ることができたと感じました。そのため、伝承館は何度も訪れたり、じっくり時間をかけて見たりするとより深く福島県の被害について知ることができるようではないかと思えました。今回の訪問ではあまり時間がなく、一時間半ではすべての資料を見ることができなかったのが少し残念に感じられました。

■伊藤延由さん

福島県飯館村在住の伊藤さんから、24日の午前と25日の午後の2回にわたりお話を伺いました。1回目は伊藤さんのご自宅にて、「原発事故の実像」というテーマで資料や資料に関する説明を受けました。2回目は村役場や学校、山道を実際に見て回りながらお話ししてくださいました。



飯館村長泥地区
帰還困難区域前



山中の道脇
雨水や雪が溜まりやすい場所で
線量計の数値は9.4 μ Sv/h

1回目は原子力発電所事故後の山菜等の放射性物質含有量について、伊藤さんが今まで収集されたデータを元に説明してくださいました。客観的な数字と共に、福島県産の農産物や山菜の放射性物質を多く取り込んだ品種や、逆に安全なものについて知ることができました。山菜やキノコは汚染されやすいと理解してはいましたが、他の農産物等と比べ想像以上に数値が高く、見た目ではわからないだけにより恐ろしく感じました。

2回目は飯館村を实际に歩きながら説明していただきました。きれいな幼稚園や小学校のすぐ横にある小山部分では測量計が高い数値を示しており、率直に子どもたちは大丈夫なのかという不安が残りました。

車で移動する中、通った道の隣や山中で帰還困難区域の看板を見かけました。見た目には分からないのに立ち入れない場所が存在するという不思議なさみしい感覚が印象的でした。



荒木

伊藤さんからは24日の午前中と25日の午後の2回お話を伺いました。24日は伊藤さんのご自宅資料とともに話してくださいました。「原発事故の実像」というテーマで、事故前の豊かな飯館村のお話から、事故後伊藤さんが10年間で集めたデータを元に事故の影響についてまでお話ししてくださいました。やはり依然としてキノコや山菜などは線量が高いことや、放射線の影響を受けやすい子供が安心して暮らせる状況ではまだないことなどを明確な数字と共に説明して下さり、事故前の飯館村の様子を詳しく楽しそうに語る伊藤さんの姿を見てから聞くと、どうにか状況が改善して欲しいと感じざるを得ませんでした。

25日には、飯館村を回りながら各所で伊藤さんの説明を聞きました。まず、村役場で地図を見ながら飯館村の地理的状況や放射線汚染の状況を聞きました。その後、小学校の周りや長泥地区などを回りました。小学校では、支援もあることから子供が村外からも来



田中

ていることや、敷地内や学校の目の前の舗装された道路は除染されて線量が低いが、すぐ隣の草が生えている場所ではかなり高い数値を示すことなどを聞き、子供たちへの心配を抱きました。長泥地区では、帰還困難区域となりバーケードが張られている目の前まで行き、雨水が溜まる地面の一点を測ると非常に高い線量が測定されることを知り、11年たった今もこの数値が観測されることに驚きました。

■あじさいの会

甲状腺がん支援グループ・あじさいの会は、小児甲状腺がん患者と家族、支援者による支援グループです。甲状腺がん患者が少しでもより良い治療を受け、より良い生活を送れるよう、お互いに情報共有しながら、支え合っています。*あじさいの会HP一部引用

当初は会の名前もなく、声を掛け合って連絡を取り合つて、患者家族同士、患者同士で集まっていたそうです。なんでも話せる仲間・家族のような存在だと話されています。

今回、私たちはあじさいの会の事務局長をされている千葉さんと、会のメンバーであり甲状腺がん患者の保護者であるお三方にお話を伺いました。

お三方とも、患者であるお子さんは学生の頃に甲状腺がんを発症されています。学校の合間に検査や入院、手術をしなければならず、定期テストやイベント等の多い学生生活に与える影響の大きさは計り知れません。手術後に大きな傷跡が残り服装が制限されるといったお話は特に、自分たちが同じ立場になったと考えるとやるせない気持ちになりました。

また、事故が起きて数年間は検査の予約や実施、結果の報告、手術など、それぞれの期間がかなり空いており、検査をするのに非常に時間がかかっていたといます。いちばん精神的負担の大きかった期間について、検査後結果が分かるまでの時間が辛かったというお話がありました。がんが発覚した時や手術前後ではないことを少し意外に思いましたが、「もしかしたらがんかもしれないし、そうじゃないかもしれない」という分からない状態を想像すると、日に日に不安が増え、神経がすり減っていくような心地がするのかもしれないと感じました。

今回お話を伺った千葉さんより「なぜ、子どもさんが、甲状腺がんになって、なぜ親御さんが、苦悩をしているのかそれは、何がそうさせているのか、どうして悲しみ悩みを背負うことになったのか」ということについて書いていただきましたので、掲載させていただきます。

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。

大津波が、太平洋沿岸を襲い甚大な被害がおきました。

福島県は、東京電力福島第一原発が4基、爆発し、メルトダウンを起こし大量の放射能が放出されました。

その事により、一時は、16万人が放射能被ばくを避けるため県内外に避難をしました。現在も約4万人の方が避難をされています。

特に、ヨウ素131は、甲状腺がんに罹患する危険な物質で、福島県はチェルノブイリ原発事故の教訓から、原発事故が起きた年から、事故が起きた時、おおむね18歳までの方38万人を対象に「県民健康調査」を開始し甲状腺検査を行いました。そこで甲状腺がんが発見された方

は、事故から11年が経った昨年9月時点で約300人います。小児甲状腺がんは、非常にまれな病気で、通常100万人に1〜2人と言われています。

福島県は多発の状態と言っても過言ではないと思います。

自分の子どもががんになるという、親には耐えられない現実と向き合うことになったのです。

しかし、福島県や、福島医大、政府は、福島で起きている小児甲状腺がんは、原発事故に由来しないがんであると言っています。スクリーニング検査により見つけなくてもいいがんを見つけているという専門家や医師もいますが、現状に目を向けなくてははいけません。

女の子は、結婚出産にも影響が出ます。被ばくしたと見られ、差別を受けるのではと、

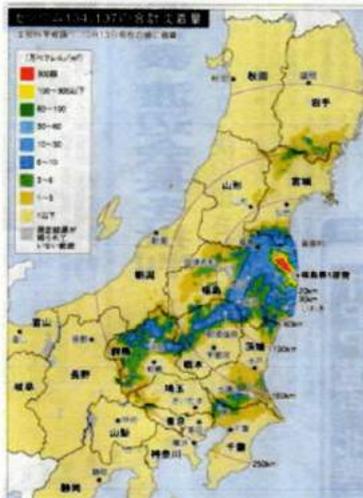


原子力発電所事故の様子

恐れ誰にも言えずに、今日まで来ました。そんな中、このままあった事が無かったかのようににはさせられない、多くの苦しんでいる人がいると。

事故当時6歳〜16歳（現在17歳〜27歳）の若者6人が今年1月、東京電力に対し提訴を行いました。その第一回口頭弁論が5月26日に東京地方裁判所で開廷されます。原告となられた方は、「なぜ自分が甲状腺がんになったか知りたいのです。」と、訴えています。息を殺して、がんと向き合う孤立した家族の姿が目につかびます。原発事故で豊かな自然が汚染され、人々も家畜も被ばくし、「原発さえなかったら」という文字を残して自死した方もいます。甲状腺がんは、そんな環境の中で、発生している病気です。

自然災害は、自宅の近くの安全なところに避



汚染地図

難し災害が収まれば、自宅に帰り復旧作業ができますが、原発事故はそこに暮らしがありませんが、より遠くに逃げなくてははいけない、さらに、現在の汚染状況ではもう戻る事も出来ないという不条理なことなのです。

原発事故があったと言うことが甲状腺がんの発症と深いつながりがあることを、ご理解頂けたらと思います。



荒木

今回お話を伺った私たち大学生は東日本大震災当時10歳前後で、震災時福島県在住の0〜18歳の甲状腺検査対象者、いわゆるリスクグループの方々と同年代となります（少し幅はありますが...）。私がテレビで震災の中継を見て衝撃を受けたあの日から11年、被災された方々が過ごされた11年を知る貴重な機会を頂き深く感謝しています。

何度も検査や手術を繰り返してこられたことや、がんに対する不安感、孤独感、対応への不信感、悲しみなど、患者の方々とそのこ

家族が経験されてきたことと感じてこられたことを伺いました。

検査や治療、手術のために学校を休み、定期検査や模試と被れば学校に対応を相談し、卒業や就職の際もがんのことを考えない訳にはいかないというお話がありました。学校生活や定期検査というワードはとも身近で、その身近な日常にがんが入り込んでいたということを強く感じました。手術で痕が残ってしまい着られる服が制限されるというお話もあり、それもまた身近でした。

お話を伺う中で、人との繋がりが不足しているという印象がありました。がんに限らず患者や患者家族の繋がりとというのは、精神面での支えになるなどの重要な役割を果たすものであると思います。あじさいの会のように不安がある中で経験者の話を聞ける機会があることや相談できる人がいることは、非常に大きな意味を持つと感じました。



田中

お会いして最初の数分は楽しくお話したのですが、ご家族のお話に入ってから皆さんの不安と心配の気持ちが伝わってきました。穿刺細胞診への恐怖、傷跡のせいでオシャレも楽しめない、人との付き合い方さえも変化してしまったりなど、私が思い至らなかったような苦しみについてのお話も沢山あったことが印象に残っています。

一人目の方は、病院への不信感について特別にお話してくださいました。病気のことにしているの伝え方や説明、また治療の方針についても信用出来ないと感じた点が多かったそうです。何度も手術を重ねていることや進学や就職など様々なことに影響を及ぼしている辛さがとても伝わってきました。二人目の方のお話では親子関係や周りとの人間関係などについてのお話が印象的でした。息子さんに原発事故についての思いを聞くことは、聞くこともつらいし息子さんも言う迷惑になるからと言わないのかもしれないという考えから

簡単にはできないという複雑な思い、また原発やがんについての話をする「またそういう話」と思われてしまうことなどから、震災前は多かったいろいろな団体とのかかわりが減ってしまったことなどを聞き、病気がそんなに人も人とかかわりに影響を与えると初めて知りました。三人目の方は、現在まで終わっていない、病気の発見から治療の経緯をお話してくださいました。その中で、穿刺細胞診についてのお話もありました。穿刺細胞診については、これまでのチエルノブイリ医療支援ネットワークの活動を知る中で学びましたが、針が長く恐怖を感じることや、刺した針を動かしたり押し込んだりすることから息苦しいことなどは全く知らなかったので驚きました。

あじさいの会を通じて当事者の方たちも家族のようになってほしいという思いや、「A2」との判断が出てから「がんである」と言われるまでが一番つらかったため、今その段階の人とつながりたいという思いを聞き、メンタルケアや人とのつながりの大切さについてのお話も印象に残りました。

■中間貯蔵施設



(上) 敷地内の施設

(下) 汚染度を運ぶ巨大ベルトコンベア

中間貯蔵施設は、大熊町、双葉郡で福島第一原子力発電所を囲むような形で整備された全体面積約16平方キロメートルの施設で、福島県内の汚染された土壌や廃棄物を集め、最終処分までの間安全に保存することを目的としています。仮置き場などからの土壌や仮設焼却施設からの焼却灰などを集め、土壌は土壌貯蔵施設に、土壌に混じった可燃物や焼却灰などは減容化施設で減容した後廃棄物貯蔵施設に貯蔵しています。中間貯蔵施設内には受入・分別施設、土壌貯蔵施設、廃棄物貯蔵施設などがそれぞれ複数点在しています。土

壌貯蔵施設では、施設の底面や側面は遮水シートで覆われ汚染された水は外部に漏れないようになっていています。

中間貯蔵施設では見学会が行われており、施設の説明の映像を見て職員の方の説明を受けた後、バスに乗り施設内を見学することができます。点在する貯蔵施設や土壌を運ぶベルトコンベア、処理施設などの周りを職員の方の説明を聞きながら一時間半ほどかけてまわります。見学の後半では、当時のまま残っている介護施設が見え、一度バスを降りて福島第一原発を見ることができません。



(上) バス再乗車時の検査

足裏を測定し乗車する



(下) 敷地内の特別養護老人ホーム

中のメニュー表は3. 11のまま

一時期メディアでよく目にはいりましたが、実際に見学することになるとは思っていませんでした。まずは中間貯蔵工事情報センターに集合し、簡単な施設概要や用語の説明を受けました。説明が始まる前までの時間は、センターにある様々な説明パネルやドローンの映像を見ることができ、説明もイラストや映像等を交えた分かりやすいもので、情報発信の場であるという印象でした。

実際に中間貯蔵施設をバスで回っていきましたが、道中見える施設等についても細かい説明があり、専門知識がなくても理解しやすかったと思います。途中に何度か一軒家を見ましたが、人が住んでいないため廃れていました。

降車場所の近くには特別養護老人ホームがあり、駐車場には数台の車、薄暗い施設内には椅子やテーブルが見えました。そこにいた人々が居なくなり当時のまま時間が止まっている場所があるという事故の影響の大きさを改めて実感する場所でした。



荒木

職員の方の説明を聞きながら回ることで、一見何の施設かわからない真っ白の施設でそれぞれ何が行われているのか知ることができました。バスで回っている最中、無機質な建物とベルトコンベアの中に、当時のあれたまま残った民家や看板などがみられ、かつては人々が普通に暮らしていたことが感じられました。住んでいた土地がどのように思い出の場所も取りつづされ無機質な施設に囲まれてしまった住民の方々がいらつしやると思うととても悲しくやるせない気持ちになりました。また、私は福島第二原発は見たことがあったのですが、第一原発は見たことがなかったため、初めて見ることができました。一号機は爆発のためほとんど見えておらず、三号機はすぐに見つけられるような石棺に覆われていました。原発を見る前後に見た介護施設は駐車場に当時のまま車が残されており、中に置かれた献立表も当時のままと聞き、当時のまま時間が止まっているように感じられました。



田中

福島県マップ

チェルノブイリ通信に登場した施設や滞在中に宿泊した旅館など



飯舘村長泥地区



浪江町津島地区





ウクライナ難民人道支援基金「ふくしまキャンプ」だより

ロシアによるウクライナ侵攻（2月24日）を受け、避難民の受け入れや、現地への医療物資等の支援などを目的としたウクライナ難民人道支援基金「ふくしまキャンプ」が3月、木村真三さん（獨協医科大学国際疫学研究室福島分室長）の呼びかけで、福島県二本松市に設立されました。

木村さんは本誌前号（2022年3月）において、ウクライナ国境地帯にロシア軍が展開し、一触即発の状況にあることへの強い懸念を表明していました。その「予言」は不幸な形で的中してしまいました。



政府専用機で羽田に着いたオリガさん（4月5日）



（上）羽田まで出迎えた木村さん

（左）五代さんをしのぶキエフ

◆◆五代さんのご縁◆◆
「ふくしまキャンプ」受け入れ第一陣となったのは、4月5日、日本政府専用機の予備機で避難してきたルバン・オリガさん（34）です。キエフ（キエフ）でIT販売会社の総務部門の仕事をしていました。

オリガさんが二本松市にやってくるきっかけは、チェルノブイリ原発事故（1986年4月）後、木村さんの現地調査に際し通訳・コーディネーターを務め、木村さんの盟友でもあった五代裕己さん（2020年44歳で死去）抜きには語れません。

五代さんは、18年に木村さんが企画したチェルノブイリ30km圏内ガイド、フランチェク・セルゲイさんの飯館・二本松・東京連続講演に同行し、二本松市コンサートホールを会場に行われた「チェルノブイリと福島をつなぐ夕べ」（同年3月）でも通訳を務めました。

五代さんが06年に設立したキエフ剣道連盟。オリガさんはそこに通って修行を積み、18年には大会のため来日しています。五代さんと木村さんとの縁つながりから、五代さん亡き後のキエフ剣道連盟を維持している事務局長のプリュイポコ・ルスランさんが橋渡しをして受け入れが実現したのです。その際、彼からのメールには「彼女は植物や花の世話をするのが非常に好きなので、できれば、土いじりができるところに住ませてやっていいかと思えます。彼女がウクライナのニュースを読む時間がないように。」（小林 茂）



(左) 『ひとみ、かあさん』の指導で二本松市での生活に踏み出したオリガさん
 (中) 畑に出てネギの植え付け。苗は栃木県の支援者が送ってくれた(4月17日)
 ウクライナの日も早い平和を望みつつ「できるなら、ずっと一緒にいてほしい」と
 『ひとみ、かあさん』
 (左) 激励に訪れた三保恵一二本松市長(4月16日)

◆◆日本を第二の故郷に◆◆

ウクライナはヨーロッパの穀倉地帯と呼ばれるほど肥沃な土地があります。国民の多くは、土に親しみ土と共に暮らす生活をしています。

木村さんは、先が見通せない避難生活の中で生きがいとなる物事、趣味や仕事を見つけてこの大事さをチェルノブイリ・福島第一原発事故研究から見出し、長引く避難生活での問題点を強く意識し、農家の借り受けを思いついたそうです。

ウクライナ北部チェルニーヒウ州の農村で育ったオリガさんの思いにかなう場所を二本松市に確保しました。

この地で農家民宿「遊雲の里(ゆうのさと)」を営む菅野正寿さんの協力により家探しとなった際、市の地域振興課を紹介してください、畑作農家を営むおばあちゃん、遠藤瞳さんの離れを借りるようになりました。羽田空港に着いた時には緊張や疲労が重なり、表情がこわばっていたオリガさんでしたが、瞳さんと一つ屋根の下で暮らし、「日本のお母さん」と呼んでいる瞳さんにも農業指導に加わっていたので、ジャガイモを植えたり、キュウリを育てる

ための支柱を立てたりと、里山での農作業を通じて、少しずつ表情に安らぎが戻ってきました。(小林茂)

◆◆『形として見える支援』◆◆
 必要な事を必要な時に

ロシア軍ウクライナ侵攻、それに続くウクライナ南部にあるザポリージャ原発への攻撃(3月4日)を受けた、難民救出を軸に行動を開始した木村さんの協力要請に多くの友人・知人が呼応しました。

木村さんからの相談で、オリガさんの生活拠点となる家探しから付き合いました。

農家では未だにトイレの整備が整っていないところがあるので、浄化槽の設置、家の建て付け、災害のあった地域なので、災害に対する安全性などを見て回りました。

オリガさんが来日する日の朝、いきなり木村さんから電話が来て、今、農家の離れを借りたからすぐに住めるように片付けに行ってくださいと頼まれました。そこから急遽決まった農家での生活を円滑に進められるように家干し用の物干



(左) 二本松市・真行寺にて。オリガさん、木村さん、佐々木住職（左端）とご家族
 (中・右) 佐々木住職の呼びかけで行われた屋根の葺き替え作業。
 →精鋭たちがプロならではの仕事を繰り広げた（4月17日）

しを作ったり、細かな家の修繕を行ったりしました。

二本松市の真宗大谷派真行寺・佐々木道範住職（ウクライナ難民人道支援基金設立顧問）には、本山（京都・東本願寺）を通じ、全国に支援募金をお願いをいただいています。

福島県では3月16日深夜、浜通りの相馬・南相馬などで震度9強の大きな地震があり、住宅の屋根瓦が壊れるなど、中通りの福島市や郡山市などでも11年前の3・11を凌ぐのでは、と思うほどの大きな揺れに見舞われました。

私たちが借り上げた瞳さんの家は、3・11から三度にわたる震度6地震のせいで雨漏りが進んでいました。このため、佐々木住職の提唱で4月17日から4日ばかりで緊急の雨漏り対策工事を行いました。呼びかけに応えた町の工事屋さん10名以上が参集し、一気に屋根瓦を外し、地震に強く耐候性のあるガルバリウム鋼板に葺き替えを終えました。手際の良さはさすがその道のプロ。雨漏りも止まりました。

『必要な事が必要な時に…』

ふくしまキャンプの目指す支援の輪が広がっています。（平山 申）

◇◇◇
 ちくちくネットの

◇◇◇
 日本語教室スタート

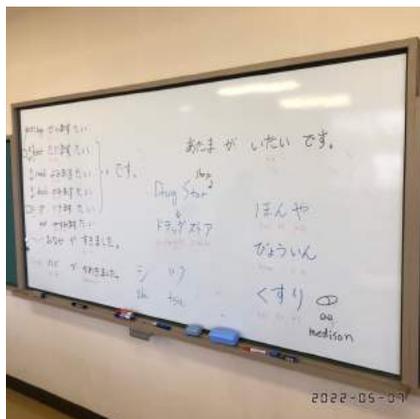
瞳さんのコミュニケーションは、自動翻訳機を使います。

目や口の動き、身振り手振りでおおよそのことは伝わるようですが、オリガさんの自立支援のため、4月16日から日本語教室をスタートしました。

オリガさんはウクライナ語・ロシア語のほか英語が話せるので、二本松国際交流ボランティア「ざくざくネット」前代表の菊地紀子さんを先生にお願いし、英語でコミュニケーションを取りながらの授業になりました。

また、「ざくざくネット」はこれまでの活動を通じて蓄積した、日本で暮らしていくためのヒントも授業のなかで教えてくれます。「毎週の日本語教室は楽しい。早く日本語を覚え、地域になじんでいきたい」とオリガさん。再び、剣道にも取り組みたいと話しています。

この日は、国見町在住のウクライナ人、オスファイエブ・デIMITリーさん（51）が訪ねてくれたのも、うれしい出来事でした。



(左) ざくざくネットの菊地紀子さんを先生に第1回日本語教室。オリガさんちょっと緊張
 (中) ホワイトボードに日常会話に必要な言葉を書いて授業は進みます
 (右) うれしい訪問。「無事でよかった」とオリガさんに話しかけるディミトリーさん

ところで、「ざくざくネット」の由来ですが、たくさんの具材が入っている二本松の郷土料理「ざくざく」にちなみ、いろいろな国の人がそれぞれの個性を出し合って良いものを作り上げていこう！との思いが込められているそうです。(松本利実)



「私の役割は、日本とウクライナとの懸け橋になること」とオリガさん。その思いに込めるため、私たちは中長期の展望に立つて自分達の身の丈に合った支援活動に取り組んでいきたいと思っています。

ウクライナ難民人道支援基金ふくしまキャンブではNPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワークを通じて皆様からのご寄付を受け付けています。

この基金に集まった資金は避難民のための宿泊施設の整備、自立までの生活費、就業のための教育費や現地への支援に充てられます。

支援は始まったばかりです。そしてこれからも続きます。ウクライナ難民人道支援基金への

多くの皆様のご理解とご協力をお願いします。(小林茂)

【現在のふくしまキャンブ主な活動内容】

- ・避難民が日本へ渡る為の渡航支援
- ・安心して生活できる宿泊施設の整備や保守
- ・日本国内での生活支援、在留手続き等
- ・自立に向けた就業支援、日本語教育等
- ・現地に残る方へ医薬品や食料、物資の支援

【将来取り組む活動構想】

- ・孤児となった子ども達の支援や保護、教育
- ・難民同士が協力しあえるネットワークの構築
- ・その他、傷ついた人たちへできること全て



「ひとみ」かあさんとオリガさん、そして支援者の皆さん

特別寄稿

自然豊かな飯舘村が原発事故に遭うと

飯舘村農民見習い 伊藤延由

飯舘村は、大阪市とほぼ同じ広さの約230平方キロ。2011年3月当時、広大な村に、大阪市の人口275万人の420分の1に満たない6,544人(1,716世帯)が、豊かな自然とともに暮らしを営んでいた。

飯舘村は、農業、林業が主体の村で、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、特産品には御影石、リンドウやトルコ桔梗などの花卉、畜産、酪農、野菜。また、極寒を利用した凍み大根、凍み餅などがあり、どぶろく特区もあって、地域の特性を生かした村づくりを進めていた。

飯舘村は、阿武隈山系の北部に位置し、標高は400〜500mあるため夏は涼しい。村の9割の世帯にはクーラーが無い。扇風機ですら使うのは年に10日あるかどうか。冬はマイナス20℃を観測したこともあるが、年の平均気温は10℃、だから花が長持ちし、紫陽花は8月〜9月まで綺麗に咲いている。



雪が融けると福寿草が咲き



土手には植えた覚えのない
水背が咲き乱れる



紫陽花は8月、9月まで鮮やかに咲く



五月には燃えるような緑のモミジ



10月には燃えるような紅葉
居ながらにして紅葉狩りが



秋には自生のリンドウが



雪が融けるとふきのとうが



山ウド (左) ・タラの芽 (右)



春にはワラビ



栗も豊富



失ったものの大きさを示すために飯館村の自然の恵みの豊かさをお話します。

山菜・茸も豊富です。

春先に山菜(ワラビ、ゼンマイ、フキ)を採取し塩蔵等で保存して野菜の切れる冬場の食卓を賑わしていました。

貨幣経済の統計では福島県内で下位に位置づけられる村でしたが人々の心も食卓も豊かな村でした。

食費の40%くらいは自然の恵みだったと話す方もいます。

村の木が赤松で秋には松茸が沢山取れます、2010年春先に近所の人に松茸採れたら分けて下さいとお願いしていました。

9月末頃約1kg程持つて来てくれました、えっ国産松茸こんなに沢山!!5万円?10万円?くらい払うのかな?恐る恐るいくら払えば良いと聞いたら何と5千円で良いですよ。その時66才で66年間に食べた松茸よりこの年1年で食べた松茸の量が多かった笑い話のようですが事実です。

松茸など高級茸の生える場所を「城」と称し、あの山の城は〇〇さんの城と他の人は侵す事の出来ない場所でした、城は親子でも教えないのが不文律でした、しかし事故後は高濃度汚染で食用に供せない、人によっても迷惑がられるので茸採りは行われなくなりました。

私はある城の持ち主に食べられないけど汚染の測定したいので採って来て下さいとお願いしました、すると俺についてこいと城に案内してくれました、写真は2014年ですが一回の茸採りで大小36本採れました、これも笑い話のような話ですが親子の間でも明かさないう城のありかを私の様な村に来て4年程の者に教える、原発事故で城を開け渡しねと。

しかしこの豊かな山菜・キノコ等自然の恵みは福島第一原子力発電所の事故で全てが失われました。

飯館村は地震による家屋倒壊はゼロでした屋根瓦がずれるなどの比較的軽微な被害でした。

飯館村の禍は福島第一原子力発電所の事故で放出された放射性物質によるものです、3月15日それまでの風向きは陸から海側に吹いていまし

種目	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
ふきのとう		2,483	319	201	108	70	51	26	46	30
山ウド	81	72	103	62	7	6		ND	ND	ND
タラの芽		320	779	295	793	26	58	14	41	16
コシアブラ			35,593	270,238	61,727	19,455	20,620	12,304	16,383	10,952
ワラビ		1,503	269	3,047	916	960	662	266	382	228
ミズフキ		446	452	410	399	210	110		99	98
ハチク		3,642	797	512	307	714		340	386	175
茗荷竹			19	37			12	5	ND	
コゴミ		197	6,004	3,481	1,587	2,301	637	1,019	952	221
シドキ		158	515	1,984	242		45	31	16	20
ぜんまい							1,102	347	358	254

山菜の経年変化

種別	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
チチタケ		76,000	500				628~ 2,162				
松茸	866	3,590	3,032	7,244	5,410~ 29,000	3,493~ 14,464	7,865	2,700~ 31,745	3,833~ 5,068	2,589~ 22,108	
猪鼻茸	44,300	48,800	27,940	72,100	44,460	3,820~ 10,873	13,628~ 28,370	2,880~ 17,338	4,197~ 35,576	10,333~ 17,924	13,549~ 34,292
サクラシメジ			14,018			31,634		21,210	84,088	32,850	
千本しめじ			988					216	176~ 860	99~300	

キノコの経年変化

た、しかし同日の午後から海から陸へ風向きが変わり原発から放出された放射性物質を含む雲が飯館村を覆った時雨になりました、夜半から雪に変わり放射性物質を飯館村に降下させました。

飯館村の禍は自然現象がもたらしたもので原発事故が起これば何処でも起こりうる禍です。

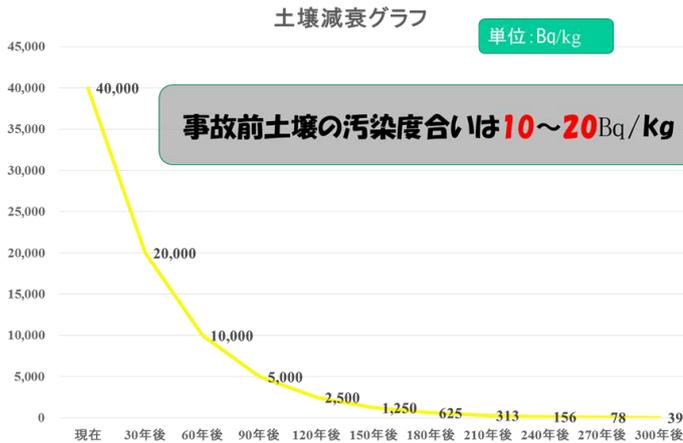
山菜の経年変化を見ると減少傾向にあり食品の基準値(100 Bq/kg)を下回る物もありすがコシアブラは数万 Bq/kgを示しています。

キノコは依然として基準値を大幅に上回っています。

2019年のサクラシメジの様に土壌(表面5cm)の汚染は約15,000 Bq/kgにも関わらず茸の値は84,000 Bq/kgを示しています、茸が濃縮している様に見えます。

しかし村内で栽培されている野菜やコメはほとんどセシウムは出ません、理由は除染した事、栽培の際にカリウムを含む肥料を施肥する事でセシウムの吸収を抑制します。

これまでも道の駅で販売されている野菜やコメ



を買求め測定していますが所有の測定器(ウクライナ製AKP社製NaI測定器システムSEG-63)では測定出来ないくらい小さな値です。

ただ、セシウムゼロかと言われるれば保証出来ませんが、ゼロ以外はイヤと言う方の主張には答えられないそれが原発事故の実像です。

問題は自生の山菜・茸です村の面積の75%は山林で未除染です、山野にはカリウム分が少ない事、最大の問題は山の環境は腐葉土で

プロフィール

伊藤 延由 (いとう のぶよし)

1943年 11月生まれ

2010年 飯舘村の農業研修所

「いいたてふあーむ」の管理人に就く
 管理人の傍ら、水田2.2ha、畑1.0haを耕作

2011年 2年目の準備を目前に被災

6月末福島市内へ避難

11月「飯舘村新天地を求める会」

を立ち上げ活動



満たされています、腐葉土にはセシウムが含まれており腐葉土中のセシウムは植物に移行しやすい形で存在する事です。

そして、この禍が無くなるのは300年の歳月を要します、現在の汚染源の大半はセシウム137で半減期30年です。

村の未除染の山野のセシウム137は約40,000Bq/kgですから300年かけて千分の一になるのを待たなければなりません。

飯舘村の豊かな自然の恵みが戻るのは300年後ですこれが原発事故の実像です。

ホームページではチェルノブイリ通信をカラーでご覧いただけます！

素敵な写真をぜひカラーでご覧ください。



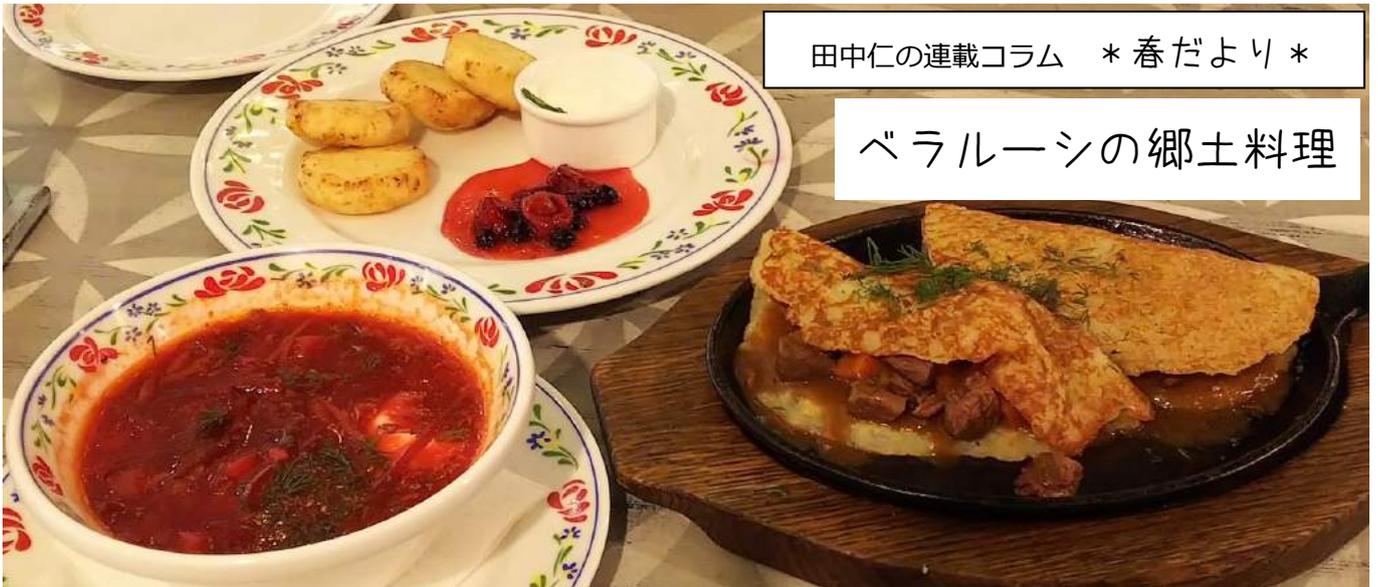
「情報発信」から

- ・チェルノブイリ通信
- ・福島レポート (特別寄稿)
- ・ミンスクの一日

等をカラーでご覧いただけます。

*チェルノブイリ通信のカラー公開は127号(今号)からです。

ベラルーシの郷土料理



こんにちは、春になり暖かくなってきたミンスクからのレポートです。今回のテーマはベラルーシの郷土料理です。主食はパンとお粥、そしてジャガイモです。料理はそのジャガイモと麦、卵、様々な乳製品を使ってできるものが多数あります。レストランの定番メニューにもなっていて、家庭でもよく作られるスープ、メインディッシュ、デザートの代表的なものをそれぞれ紹介したいと思います。

①スープは様々な種類があります。有名な“ボルシチ”（ビーツ入りで紅色）、“ソリャンカ・ミヤスナーヤ”（香辛料をきかせて肉類を汁物仕立て）、“テルチュハ”（ジャガイモとバター、クリームを混ぜてベーコンを添える）の他にキノコやジャガイモ入りの野菜スープ、カボチャ、ブロッコリー、マッシュルームをすりつぶしたクリームスープが好まれています。また、夏の暑い時期にはボルシチの冷製スープ版“ハラドニツク”が人気です。

春先にサウナへ招待された時にご馳走になった魚入りスープ“ウハー”は調理法、味ともに印象深いものでした。スーパーの買い出しからご

(右) お魚スープ「ウハー」の仕上げに薪を釜にくべる場面



一緒にさせてもらいましたが、ジャガイモ、ニンジン、トマト、青菜、香辛料と材料を選んでいき、さらに魚売り場で水槽の中で泳いでいる鯉（現地の川でとれる活きのいいもの）をビニール袋に入れてもらいます。魚は新鮮なものほど味がよいというのですが、とても勢いよく跳ねていたのでレジに通すのも大変そうでした。サ



ドラニキ



ジャガイモピューレー



黒パン

サーロ

ウナ室のある木造の家にある古風な調理場でスープの素を作ります。かまどに薪を入れて火をおこし、大きな釜に入れた水を沸騰させます。その間、魚をさばき野菜を適当なサイズに切り分けるなどして具の準備をします。沸騰したお湯のなかへ具はかためのものから順に入れていき、何種類かの香辛料を加え、アクを取り除きながらゆつくりとかき混ぜます。実に一時間ほどかけてゆで上げていきます。そして、かまどにくべていた薪を一本取り出し、それを煮立ったスープの中に浸して仕上げとなります。そうすることで旨みがさらに増す伝統の隠し味だとか。こうして出来上がった“ウハー”は確かにコクのある美味しいスープです。スパイスがよくきた汁に野菜と魚のだしがバランスよく出ていて、口に含んで飲むととても体が温もっていくのを感じます。

それと一緒に黒パン、“サーロ”（肉の脂身）、酢漬けの野菜類が食卓に並んでいました。飲み物はミネラルウォーター（炭酸ガス入りなし）、ライ麦と麦芽を発酵させて作られる“クヴァース”のボトルが置いてあり、はちみつ入りの紅茶も注がれます。これがサウナでの伝統的メニューということす。

②メインデッシュは主食であるジャガイモを使用したものが豊富です。ジャガイモの味そのものがとても美味しく、調理の仕方もいろいろです。普通に揚げたり蒸したりして肉や魚に添えることもあれば、ゆでたものを押しつぶしてペースト状に練ったマッシュポテト“ピュレー”のようなものまで幅広くあります。

なかでも有名な一品が“ドラニキ”です。細かくすりおろしたジャガイモを油で揚げたハッシュドポテトのようなもので、これにサワークリームをつけて食べたり、肉や魚、リンゴ、フレッシュチーズをはさんだものが出されます。現地での一番に勧められる民族料理で、来た当初はそのジューシーな味に夢中になりました。満腹感を得られますが、続けているとあぶらっこさに飽きがでるかもしれません。しばらく口にしていなかった“ドラニキ”が懐かしくなり、カフェで注文してみました。久しぶりに食べてみると、初めて口にした時のような新鮮な香りと旨み豊かな味わいを十分に楽しめました。



アップルパイ



ナリスニキ



レーズン入りのお粥

“スメタナ”ソース添えのパンケーキ

③デザートに出されるものはバラエティに富んでいます。一般家庭で手軽に作れるものを教えてもらいました。パンケーキ類の“シルニキ”や“オラージ”は調理法と出来上がりの形が非常に似通っています。前者は“トヴォログ”という白くて未熟成な柔らかいチーズ、後者は発酵した乳飲料の“ケフィール”と“ソーダ”（調理用炭酸水素ナトリウム）をそれぞれ小麦粉、生卵、砂糖、塩と一緒にかき混ぜてパン生地を作り、平たく整形してフライパンで揚げます。地産のサワークリーム“スメタナ”や加糖練乳“スグシヨンカ”を塗って食べるとおいしさが際立ちます。

食料品店でよく見かける菓子パンの“スメタンニク”（サワークリームをのせて焼成したピローク）も家で作ることができます。温めた牛乳をボウルに注ぎ、パン生地を作るためのイースト（酵母）と砂糖、小麦粉を入れてよく混ぜて置いておきます。これに別のボウルで生卵とバターに塩をまぶしてかき混ぜたものを加えて、さらにペースト状にしていきます。かたまってきた生地をこねて形づくり、そこへサワークリームに砂糖やバターを加えて濃厚にした“スメタナ”ソースを盛り合わせ、オーブンに入れて焼き上



オラージ



スメタンニク

がるのを待ちます。食後やおやつの時間に出される紅茶やコーヒー、ココアの温かい飲み物に添える菓子パンの一つとして安定した人気を誇っています。

その他にもクレープの一種“ナリスニキ”（薄力粉、砂糖、塩、生卵、牛乳、水を混ぜ合わせものをフライパンで揚げた“ブリヌイ”の生地）にサワークリーム、フレッシュチーズ、ジャム、ベリー、レーズン、キノコ、イクラなどを好みで包んで食べるおやつやアップルパイの“シャルロット”ケーキ（小麦粉、砂糖、生卵をかき混ぜて作ったペーストの中にリングの切れ端を入れていき、オーブンで焼いたピローク）等が家庭で作られるスイーツとして有名です。

紹介した民族料理以外にも、様々な野菜・肉・魚を盛り込んだサラダが食卓を彩ります。親戚や友人同士の集まりでは、これに加えてピザや寿司を注文・調理することが多々あります。手作りの寿司は市販の海苔に炊いたご飯とサケやマスといった魚の赤身、薄焼き玉子、キュウリまたは野菜の葉、柔らかめの白チーズをアレンジにのせて巻き簾でくるんでいくものが好まれています。冬が長く寒い国なので、体が芯から温まるようなコクのある料理が主流ですが、新鮮な野菜やフルーツ、豊富な乳製品もバランスよく摂取するなど、食と健康に対する関心は高いものがあります。

田中仁（たなかひとし）



ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

スパイシーなスープ ソリヤンカ

<< 材料 (4人分) >>

肉	300 g	オリーブ	8 粒
玉ねぎ	2 個	バター	大さじ 1
マッシュルーム	8~10 個	トマトピューレ	大さじ 2
ブイヨン	3 カップ	サワークリーム	80 g
ハーブ	適量	レモン	1/4 個
きゅうりのピクルス	小 4 本	塩	少々
ケイパー	10 粒	黒コショウ	少々



ベラルーシの料理のレシピを紹介します！



*肉 : 煮込んだ肉、ハム、ウインナー、子羊肉、タン、腎臓など

*ハーブ : ローリエ、フェンネル、ディル、マジヨラム、パセリなど

<< 作り方 >>

1. 玉ねぎをみじん切りにし、ブイヨンを少しずつ注ぎながら軽く炒め、
2. きゅうりのピクルスの皮を薄くむき、2つに割って薄切りにする。
3. 肉（肉製品）を角切りにしたものと①の玉ねぎを鍋に入れ、ブイヨンを注ぎ、ケイパー、オリーブ、ハーブ、きゅうりのピクルス、マッシュルーム、トマトピューレを入れて5~10分煮る。輪切りのトマトを加えてもよい。
4. 塩、黒コショウで味を調べて器に注ぎ、サワークリーム、みじん切りのパセリまたはフェンネル、レモンの薄切りを載せる。



古本募金 きしゃぽん

ご支援・ご協力をありがとうございます！

読み終えた本やCDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんのご寄付をお寄せいただいております。誠にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします！

◀ これまでにお寄せいただいた寄付額 ▶

◆◆ **1,120,038**円 (370名) ◆◆

◆2017年1月～12月	78,612円	(35名)
◆2018年1月～12月	139,795円	(70名)
◆2019年1月～12月	403,362円	(97名)
◆2020年1月～12月	188,378円	(88名)
◆2021年1月～12月	292,268円	(80名)
◆2022年1月～4月	17,623円	(15名)

あなたのご自宅や職場に眠るお宝が
チェルノブイリ支援につながります



その他、懐かしのおもちゃ、ブリキ玩具（昭和40年代以前のもの）、フィギュア、プラモデル、鉄道模型、洋酒、テレホンカード、商品券、切手、ハガキ、年賀状、カメラレンズ、模型、絵画、万年筆など…

クレジットカード決済・シンカブルのご案内

Syncable

この度クレジットカードで寄付ができる“Syncable(シンカブル)”を導入しました！
チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページや右のQRコードからアクセスが可能です。



お手持ちの端末でお読み取りください

活動報告

◎ 9条まつりに参加しました！

時間：5月3日（火） 場所：勝山公園（北九州市小倉北区）

のぞみ21のしおりやランチョンマット、エプロンドレス、ベルト等を販売しました。

チェルノブイリ医療支援ネットワークの活動を事務局長・川原が発表しました。

◎ ドットジェイピーNPO交流会

時間：5月22日（日） 場所：福岡市立城南センター（福岡市城南区）

グループを回りながらチェルノブイリ医療支援ネットワークの活動内容を発表しました。

テーマについて学生の皆さんとディスカッションしました。



たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計 2,271,913円

- *活動支援金 207,401円
- *のぞみ21カンパ 0円
- *雪だるま3号カンパ 0円
- *東日本支援カンパ 9,000円
- *おまかせカンパ 89,000円
- *ウクライナカンパ 1,886,512円

(2022年2月～2022年4月分の寄付内訳)

●口座受付寄付

和田政子 本岡眞利子 福井寿雄 梶原孝子 高橋武三
 辺希和子 石川睦枝 田中京子 藤井真弓 佃あけみ 西嶋
 香穂子 佐々木悦子 浅原望樹 関根敏子 五木村物産館出
 荷協議会 ピアノの木福島子供基金 渡邊文孝 水野眞由美
 [都道府県別]

【北海道】 1名	【青森県】 1名	【福島県】 5名
【富山県】 2名	【石川県】 1名	【東京都】 3名
【神奈川県】 1名	【静岡県】 2名	【愛知県】 2名
【京都府】 1名	【奈良県】 1名	【三重県】 3名
【大阪府】 1名	【兵庫県】 1名	【鳥取県】 1名
【島根県】 1名	【岡山県】 1名	【広島県】 2名
【山口県】 2名	【愛媛県】 17名	【福岡県】 19名
【佐賀県】 1名	【長崎県】 1名	【熊本県】 3名
【大分県】 4名	【宮崎県】 3名	【鹿児島県】 3名

計91名(匿名含む)

●月々の定額寄付(マンスリー)サポーターの皆さま

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井
 上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久
 保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈
 子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗
 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛
 大輔 古賀輝洋 古賀尚子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美
 代子 阪口香奈子 佐々野也依 佐藤一江 佐藤進一 佐藤
 照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田
 恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱
 加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆか
 り 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道
 代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子
 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸
 山子より 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村
 松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美
 抄子 渡邊久美子

計112名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、ありがとうございます。皆
 様よりお預かりしたご寄付は、チエルノブイリ被災者医療支
 援、福祉工房希21支援、東日本震災被災者支援、事務費用
 等にあてさせていただきます。

※通信(のお名前掲載をご承諾いただいた方のみ)ご掲載して
 おります。

集記 編後

最近の福岡は暑かったり寒かったり雨が降ったりと、安定しない天気が続いています。梅雨に入る前までくらいは晴れ
 てほしいと思いつつ、雨の中紫陽花を見に行くのも好きなので、少し悩ましいと思う今日この頃です。(S・A)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

● 活力して頂ければ幸いです! ● お役に立てれば幸
 いです。 ● コーヒーありがとうございます。ウクライ
 ナ・ロシア・ペラルーシ・大変なことになりました。一日
 も早い平和を願っています。 ● 大変な状況下、少しで
 も守ればいいですが。 ● いつもありがとうございます
 ます。 ● ありがとうございます。 ● 一日も早い戦争終
 結をお祈りしております。 ● 戦争が早く終わってほし
 いです。 ● 戦争とCovid-19が早く終わることを願
 います。 ● おいしいコーヒーをいつもありがとうございます
 ます。 ● 原発はいりません! 被災地の子どもたちの未
 来が少しでも明るいものになりますように! ● 戦争
 を早く止める手立てはないのでしょうか。ウクライナ
 の子どもたちが心配でなりません。 ● お世話になって
 おります。挽きたてのおいしいコーヒーが頂けることに
 感謝しております。 ● 恥しいことですが、今回のウク
 ライナ危機で初めて貴団体の活動を知りました。少
 しでもお役に立てば幸いです。 ● 頑張ってください。
 ● 支援ネットワークの方々、コーヒー生産者の方々の
 すばらしいつながりの輪に私たちも加わることができ
 て嬉しいです。 ● コーヒーおいしい!!

お知らせとお願い

振込 用紙は原則として毎号同封
 しています。これは「思い立つ
 た時にいつでも振り込みできるように、毎号
 同封してほしい」という要望があったからで
 す。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処
 分をお願いいたします。